

時間と出来事?

「時間についての問題はね、ずつと人類が考え続けてきた一大テーマなんだ。」

「わたしだって人類よー 考えだっただいでしょう。」

「うん、ただね、時計の時間を唯一の時間だと考える人は多いんだ。時間というものが確固としてあって、それを測定するものが時計だというふうに物理学者はふつうそう考える。そうすると、おまえの言うのやウエーガメの所題はいわゆるれつきとした時間ではなくなるよ。」

「物理の先生には物理の時間があったらわたしはかまわないわ。でも、物理的に説明できたとしても、キヤシーの意見を支配してしまふことは、できなかないよ。」

「わたしは支配なんかされないから大丈夫。それより、物理の先生はじつに説明をするのよ。」

「そうだな、以前は地球の自転をもとにして、今ではセシウム原子の振動数で、時間つまり一秒の長さを決めるんだ。これを人類が採用しているから、つまり、地球上に標準時があること、たとえ時差があっても飛行機の乗り継

ぎがスムーズである。」

「そうね、時計の時間がないとしたら私たちの生活は混乱してしまうってことはわかるわ。でも、それ、なんだか時計の時間が普通の言葉のように聞こえない? だって、わたし一度もセシウムの振動なんて見たことないもの。」

「おまえは見えてないかもしれないが、セシウムのものすごい数の一秒間の振動数はちゃんと物理現象としてあるんだ。」

「そう? でも、パパ、その何百回か知らないけどその振動数? その振動数、それが時間ってどうして言えるの? それって振動ってどうして言えるじゃないの? 出来事が時間なの?」

「物理学者は、物理現象としての時間問題をずる。しかし、その先生たちが見ているのは、実は振動数という現象であって、時間そのものではない。そこに時間の問題の難所がある。地球の自転にして、セシウムの振動数にして、出来事を時間で置き換えているつまり、それらで時間を測っているわけだ。」

「どういうこと? むづかしいわ。」

「つまりだね、時間というものが、おまえの身長のようについで実体としてあって、それを音叉のように測っているのよ、ということよ。それとも……。」

「それとも?」

「それとも、測る実体などそのそもその

こにもなくて、われわれが出来事を起こすことで時間になっている、あるいは時間を作っているのか?」

「あのね、この前、合唱部のお姉さんたちが音楽室で歌の練習をしたの。それで「キヤシー、この歌詞おしえて」って言ってきた。それが、「ジーズンズ オアラグ」(Jesus Loves Me)っていう曲で、それだ。」

「じゃ、聴かせてあげるわー(キヤシー、タブレット端末を操作) ほら。」

きょろろ きょろろ

「一年経ち方もりり分をもみはどうやって計るか、か? ミュージカルの歌詞だね。素敵なお曲だ。」

「でしょー! 時間を計るのは、時計の針で? 夜明けの数で? 何杯コーヒ一飲んだかで? 流した涙の数で? それとも、あげたりもらったりした愛情で? って歌っているのよ。時計以外のものでも時間が計れるって歌ってるんじゃないの?」

「そうなんだが……それで、おまえは時間がひとつだけかパパに聞いたわけか?」

「そういわけじゃないけど、ただこの歌のこと思い出したの、でも、パパ、これって歌の歌詞でして、だから秒のようなものなの? それともマゾなの。」

「そりゃ、おぼけているわけじゃないからマジさ。でも、おまえの疑問はそのことじゃないよね。ほんとうにコーヒ一を飲んだ回数や涙の数で時間が計れるかって、そうなの?」

「そうなの、そうなの。そういうので時間が計れたらすつてくカッコイイと思うわ。でも……そうなるら飛行機に乗り遅れるわね、ゆっくりにコーヒ一飲んでたりして!」

「誰や交差が悪いわけではないな。ただ、文学とサイエンスでは違った言語を共用している。英語と日本語みたいなね。おまえは日本語をパパより早くおぼえたが、2つの言語は方法がとて

も違う。文学とサイエンスもそうだが言葉が違ふ、文法が違ふ、構文には翻訳が必要だ。」

「時刻」の読み方

「パパの言う翻訳ってどういうこと? それならその翻訳をしたら数字が国語になるの? わたし体育は苦手だけど音楽は大得意よ、体育を音楽に翻訳できたらうれいんだけど。」

「例えはだが、体育の音楽への翻訳に「ダンス」があるかもしれない。あるいは、算数の国語への翻訳のひとつが「セオリー」(理論)かもしれない。」

「なんかヘンな翻訳だ。だから、きょうの "Seasons of Love" を聴いたって程

学の言葉に翻訳ができるのね？ どんな訳になるの、言ってみて！」

「それは、そう簡単にはいかん。言葉で書かれた字や賢人が時間の問題を考え抜いてきた歴史がある」

「パパは、賢人かどうかわからないけど、いちおう学者なんですよ。だったら歴史でできるんじゃないの？」

「そうだなあ、ひとつ思うのは、例えば、日本語では「時」と「刻」をつなげて「時刻」となるし、「時」と「刻」をつなげて「時刻」となる」

「それでパパは何が言いたいわけ？ 英語は「時」だけだぞ……」

「ということは、時間は何かと何かの間のことで、また時刻は「刻む」という動詞と関係する」

「?? 何と何の間が時間なの？ わかんない。これって、国語の問題？ それとも理科の問題？」

「両方かな？ さっき、おまえが言った「出来事」を思い出してみよう。英語では、*an event*、がそれに近いが、日本語はその出来事と出来事の間が時間だっけって言っているんだよ。そうして、その出来事、イベントが刻んでいくのが時刻だとしたら、立場が合うんじゃないか？」

「コーヒーを飲むという出来事が刻むものが時間だ？ でも、パパ、それって英語の発想で「時は刻み」と読むから出来事という「刻み」があってそれが「時刻」ということになるんでしょ？」



Illustration by Shigeo Hara

に戻るじゃない！ 歌や小説とサイエンスとは違った言葉を話すってパパが言ったことに、懐疑しとやらはどこに行ったの？」

時間の種類

「よし！ じゃ、もう一度切り直しだ！ 100年くらい前かな、イギリスにマクタガート (McTaggart) という哲学者がいてね、時間はそもそも有るのか無いのか考えた。で、かれの結論は、時間というものはないということだった」

「それはマクさんと皆さんの意見なんですか？ その意見がどうかしたの？」

「だが、この人はいへんおもしろいことを言った、時間には種類があるってそれを大きく3つに分けて、A系列B系列、C/D系列とした。A系列の時間というのは、おまえが最初に言ったあの「楽しい時間が早く進む」っていうあれだよ。つまり自分が持っている時間だ。だからパパにはパパのA系列があることになる」

「それなら、みんな一人ひとりが持っているのがA系列の時計で、その時計で測った時間がA系列の時間ということね？ いいわ。じゃ、B系列は？」

「B系列は、ふつうの時計が刻む時間のことだ。標準時があって時報を知ら

